海洋プラスチック汚染 現場からの報告 ②

ＪＥＡＮ事務局長
小島 あずさ

海ごみの半数は陸上の生活ごみ 消費者の行動変える仕組みを

ＪＥＡＮは、国際海岸クリーンアップ（International Coastal Cleanup= 略称ＩＣＣ）の日本での企画運営を担っています。

ＩＣＣは、米国の海洋環境ＮＧＯが主宰する、海と海につながる水辺のごみ調査です。主宰団体のオーシャンコンサーバンシーでは、海洋環境保全や生態系保護のためのさまざまな活動を行っていますが、人間が出すプラスチックごみが海に入り込み、海洋生物などに深刻な影響を与えていることから、1986年に海岸のクリーンアップを行いました。

その際に、回収したごみを調べてみたところ、川の上流域や、外国から流れてきたらしいごみが散見されることに気づきました。そこで、海に面した全ての国や地域に呼びかけて、同じ時期に同じやり方でごみを調べてみることになったのです。9月の第3土曜日を中心に、9月から10月にかけての2カ月間を実施期間と定め、世界各地の市民団体などに参加を呼びかけたところ、近隣のメキシコとカナダがすぐに参加しました。日本は、世界で4番目の参加国として90年に初めてＩＣＣを実施し、以来継続して活動しています。

ＩＣＣでは、まず任意の場所と範囲で、海岸の人工ごみをクリーンアップします。次に、集めたごみを細かく分類して、品目ごとに個数で数え、それぞれの場所にどんなごみがどれくらいあるのかを調べます。この時に使うデータカードは世界共通の調査用紙で、日本では、和訳し主宰団体の許可を得て独自の調査品目を追加したものを使用しています。

会場ごとの日時、天候、参加人数、クリーンアップした距離や面積などを記録し、意見や感想を添えて国や地域のまとめ役（コーディネーター）に報告する仕組みです。

日本では、ＩＣＣ実施をきっかけに誕生したＪＥＡＮがナショナルコーディネーターとして、参加呼びかけと国内のとりまとめを行い、日本の結果をオーシャンコンサーバンシーに報告しています。

ＩＣＣのごみ調査は、学術調査のような精度の高さはありませんが、世界各地で大勢のボランティアが集めたデータは、海のごみの実態を周知し、ごみを元から断つための手がかりとなります。また、調査への参加そのものに啓発・教育的効果があります。医療廃棄物のように数は少なくても見過ごせない危険なごみもあれば、生活日用品がたくさん海のごみになっていること、その多くがプラスチックでできていることなどに、気づくきっかけとなるからです。

調査結果は、オーシャンコンサーバンシーで分析されて各国のコーディネーターを通して参加者にフィードバックされます。日本国内の結果はＪＥＡＮが独自の考察分析を行い、毎年の結果概要を国内の参加団体などに報告しています。

データカードは、破片やかけら、陸上生活に起因するもの、水産や釣り、海上投棄など海や河川に起因するものに大分類され、さらに、飲料用プラボトルやレジ袋など個別のアイテムごとに分類されています。

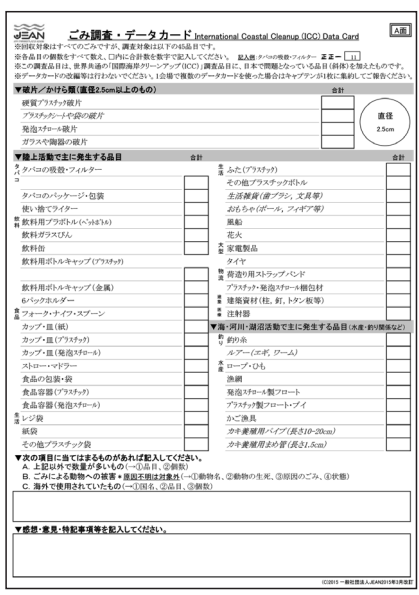
日本国内の調査結果では、破片やかけらのごみは、2016年では全体の約29・5％、17年では31・6％を占めています。しかし、最も多いのは陸上起因の生活ごみです。16年は58・3％、17年は48・9％でした。

元の製品が特定できない破片・かけらをのぞいて考えると、海で使う資材などに比べて、陸域起源のごみの多さが際立ちます。品目で見ていくと、タバコのフィルターのほかには、飲料用プラボトル、飲料缶、プラスチックのボトルキャップ、ストロー／マドラー、食品の包装・袋などが多く、そのほとんどが使い捨て製品であることが分かります。

海や河川起源のごみでは、日本の独自調査品目であるカキの養殖用漁具（スペイサーとして使うプラスチック製パイプ）が突出して多く、養殖の盛んな地域から他地域に流出・漂着している実態が垣間見えます。このパイプは、ハワイ諸島や、北米の西海岸地域でも広範囲に漂着が確認されています。

対策としては、養殖施設や作業工程の管理徹底、流出したものの回収促進、そしてプラスチックからの代替材料の導入検討などが必要です。パイプはもともと竹を使っていたそうで、当時は竹林の管理に一役買っていた面もあると思われます。

海をプラスチックごみで汚さない方法で生産された水産品を選んで購入できる仕組みがあれば、消費者の行動の変化にもつながるのではないでしょうか。



JEAN ごみ調査・データカード International Coastal Cleanup (ICC) Data Card　A面

※回収対象はすべてのごみですが、調査対象は以下の45品目です。
※各品目の個数をすべて数え、□内に合計数を数字で記入してください。　記入例：タバコの吸殻・フィルター　正正一　11
※この調査品目は、世界共通の「国際海岸クリーンアップ(ICC)」調査品目に、日本で問題となっている品目（斜体）を加えたものです。
※データカードの改編等は行わないでください。1会場で複数のデータカードを使った場合はキャプテンが1枚に集約してご報告ください。

▼破片／かけら類（直径2.5cm以上のもの）　合計
- 硬質プラスチック破片
- プラスチックシートや袋の破片
- 発泡スチール破片
- ガラスや陶器の破片

直径 2.5cm

▼陸上活動で主に発生する品目　合計
- タバコ：タバコの吸殻・フィルター
- タバコのパッケージ・包装
- 使い捨てライター
- 飲料：飲料用プラボトル（ペットボトル）
- 飲料ガラスびん
- 飲料缶
- 飲料用ボトルキャップ（プラスチック）
- 飲料用ボトルキャップ（金属）
- 6パックホルダー
- 食品：フォーク・ナイフ・スプーン
- カップ・皿（紙）
- カップ・皿（プラスチック）
- カップ・皿（発泡スチール）
- ストロー・マドラー
- 食品の包装・袋
- 食品容器（プラスチック）
- 食品容器（発泡スチール）
- 生活：紙袋
- その他プラスチック袋
- レジ袋
- ふた（プラスチック）
- その他プラスチックボトル
- *生活雑貨（歯ブラシ、文具等）*
- *おもちゃ（ボール、フィギアア等）*
- 風船
- 花火
- 家電：家電製品
- タイヤ
- 衛生：海遊び用ストラップ・バンド
- プラスチック・発泡スチール梱包材
- 建築：建築資材（柱、釘、トタン板等）
- 漁具：注射器

▼海・河川・湖沼活動で主に発生する品目（水産・釣り関係など）
- 釣り糸
- ルアー（エギ、ワーム）
- ロープ・ひも
- 漁網
- 発泡スチール製フロート
- プラスチック製フロート・ブイ
- かご漁具
- *カキ養殖用パイプ（長さ10-20cm）*
- *カキ養殖用ふち皆（長さ1.5cm）*

▼次の項目に当てはまるものがあれば記入してください。
A. 上記以外で数量が多いもの（一①品目、②個数）
B. こみによる動物への被害・原因不明は対象外（一①動物名、②動物の生死、③原因のごみ、④状態）
C. 海外で使用されていたもの（一①国名、②品目、③個数）

▼感想・意見・特記事項等を記入してください。

(C)2015 一般社団法人JEAN(2015年3月改訂)